

高木綾子(フルート) Ayako Takagi, Flute

高木綾子は、確かなテクニックと、個性溢れる音色、ジャンルを超えた音楽性で、今最も注目を集める実力派フルート奏者である。テレビ・ラジオへの出演やCM出演など従来のクラシック演奏家の枠にとらわれない幅広い活動とレパートリーで各方面から注目を集めている。愛知県豊田市生まれ。3歳よりピアノ、8歳よりフルートを始める。東京芸術大学付属高校、東京芸術大学を経て、同大学院修了。これまでにフルートを西村智江、橋本量至、G.ノアック、小坂哲也、村上成美、金昌国、P.マイゼンの各氏に、室内楽を岡崎耕治氏に師事。高校、大学在学中よりその実力は高く評価されており、毎日新聞主催全日本学生音楽コンクール東京大会第1位(1995年)、神戸国際フルートコンクール奨励賞(1997年)、大学内にてNTT Docomo奨学金を受け、安宅賞(1997年)、宝塚ベガコンクール優勝(1999年)、日本フルートコンベンションコンクール優勝、併せてオーディエンス賞(1999年)、第17回日本管打楽器コンクール、フルート部門第1位及び特別賞(2000年)、第70回日本音楽コンクールフルート部門第1位(2001年)、第12回新日鐵音楽賞フレッシュアーティスト賞(2001年)、ジャン・ピエール・ランバル国際フルートコンクール第3位(2005年)、神戸国際フルートコンクール第3位(2005年)など多数の受賞歴を誇る。一方で、大学在学中より本格的な演奏活動を開始。これまでに国内主要オーケストラとの共演はもとより、新イタリア合奏団、シュトゥットガルト室内管弦楽団、ミラノ弦楽合奏団、サンクトペテルブルク交響楽団、フランツ・リスト室内管弦楽団などと共演。2004年秋にはパリ室内管弦楽団との共演でパリ・デビュー。それに続く日本ツアーにも同行し好評を博した。同時に各地でのリサイタルや室内楽など活発な演奏活動を行っている。2010年には、デビュー10周年を迎え、秋に記念リサイタルを行った。CD録音も活発に行っており、2000年3月には「シシエヌ〜フルート名曲集」、「卒業写真〜ブレイズ・ユーミン・オン・フルート」を同時リリースしてCDデビュー。その後、「ジェントル・ドリームズ〜20世紀のフルート音楽」、「青春の輝き〜ブレイズ・カーペンターズ」を同時リリース、クラシックからボサノバまでラテンアメリカの作品を集めた「南の想い」、17世紀から現代までのフルート・ソロ曲を集めた「エル・ブルー〜青の余白」、イタリアで収録した新イタリア合奏団との共演による初めての協奏曲アルバム「イタリア」、大地、自然、生命の息吹をテーマにしたフルート名曲集「EARTH」、ギターの前田進一とのデュオアルバム「海へ」をリリースしてそのすべてが高い評価とセールス実績を残している。2010年には、デビュー10周年を記念して、ベスト盤(日本コロムビア)とモーツァルト:フルート協奏曲集(エイベックス・クラシックス)をリリース。2011年7月には、モーツァルトのフルート四重奏曲全曲集(エイベックス・クラシックス)よりリリースして好評を博す。現在東京芸術大学准教授、および洗足学園音楽大学客員教授、日本大学芸術学部、武蔵野音楽大学、桐朋学園大学の非常勤講師として後進の指導にもあたっている。



ワーヘリ World Heritage

2013年結成。「ワーヘリ」(“ワールド・ヘリテージ”の略)という名称は、日本ジャズ界の巨匠、前田憲男(1934-2018)が「世界遺産級に珍しいデュオであると共に、彼らが遺す音もまた世界遺産」という意味を含めて命名。吹奏楽の花形ユーフォニアムと低音の要チューバによる、楽器の枠を超えた多彩な表現で好評を博しており、国内公演に加え、アメリカ合衆国とポルトガルでも公演を行い喝采を浴びている。また、前田憲男、中川俊郎、加羽沢美濃、松本望をはじめとするアーティスト達がワーヘリのために新作や編曲を手がけている。

外園祥一郎(ユーフォニアム) Shoichiro Hokazono, Euphonium

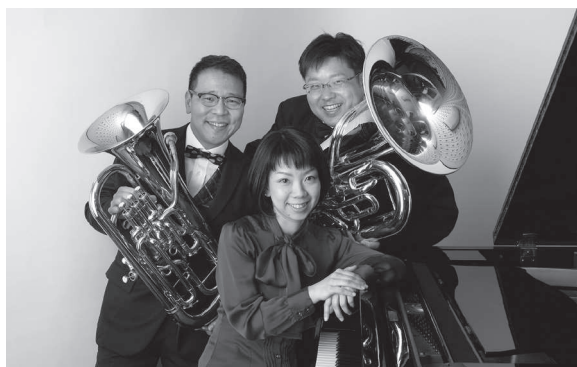
東京コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース修了。1992年第9回日本管打楽器コンクール第1位および大賞受賞、97年P.ジョーンズ・ブラス・コンクール・ユーフォニアム部門優勝。N響、東響、読響、東京佼成ウインド、名フィル、大阪フィル、九響、札幌を含むオーケストラとの共演、リサイタル、アンサンブル公演等、多彩な演奏活動で多くのファンを魅了。「題名のない音楽会」、「らららクラシック」等のテレビ番組やNHK-FM等にも出演。これまでにCD27作品をリリース。東京音楽大学教授、エリザベト音楽大学、大阪音楽大学、京都市立芸術大学、昭和音楽大学各客員教授および相愛大学音楽学部特別講師。ピュッフェ・クランボン・ジャパン専属講師。

次田心平(チューバ) Shimpei Tsugita, Tuba

読売日本交響楽団チューバ奏者。京都市立芸術大学を首席で卒業。第24回日本管打楽器コンクール第1位。これまでに日本フィル、読響とチューバ協奏曲を共演。また、国際チューバ・ユーフォニアム大会、ローブラス音楽祭、国際チューバ・ユーフォニアム協会に招かれ出演。「待ぼう」、「ワーヘリ」、「The TUBA band」、「なにわ(オーケストラ)ウインズ」のメンバーとしても演奏活動を行っている。DVD「チューバマスター」、CD「TuBest!」、「Mr.Tuba!」をリリース。洗足学園音楽大学准教授、東京音楽大学、尚美ミュージックカレッジ専門学校コンセルヴァトアールディプロマコース、ダ・カーポミュージックスクールの講師として後進の育成にも力を注いでいる。

松本 望(ピアノ) Nozomi Matsumoto, Piano

東京藝術大学大学院修士課程作曲専攻修了。パリ国立高等音楽院ピアノ伴奏科首席卒業(審査員満場一致)。2007年第4回リヨン国際室内楽コンクール(ヴァイオリンとピアノのデュオ)および09年第55回マリア・カナルス国際音楽コンクール・ピアノトリオ部門で第1位を獲得。08年度文化庁新進芸術家海外留学制度派遣研修員。在学中より作曲と演奏の両分野で活動を展開。ワーヘリ関連では、自作曲「空への階段」『Two Dogs』および「ハンガリー舞曲第5番(ブルームス)」「ハンガリー狂詩曲第2番(リスト)」「ブランデンブルグ協奏曲第3番(バッハ)」等の編曲譜が出版されている。国立音楽大学、洗足学園音楽大学、各非常勤講師。東京藝術大学弦楽科伴奏助手。



ベルリン・フィル八重奏団 Philharmonic Octet Berlin

ベルリン・フィル八重奏団は、結成から80年以上という、ベルリン・フィルハーモニーのメンバーが組織する多くの室内楽アンサンブルの中で、もっとも長い歴史と伝統をもつ団体のひとつである。その歴史は、1928年、8人の楽員たちがシューベルトの八重奏曲を演奏するために集まったところから始まった。メンバーは現在に至るまで、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のトップ奏者および世界第一級の演奏家によって構成されており、ヨーロッパをはじめ、世界の諸都市で演奏活動を行っている。当初はヨーロッパを中心に活動していたが、1954年、初めて7週間の南米ツアーを行い、この頃から始まったアメリカ合衆国、カナダへの再三にわたる演奏旅行で成功をおさめた。その後、アフリカ、韓国、中国、マレーシア、ニュージーランド、オーストラリア、旧ソ連、イスラエルなどの各国や、ザルツブルク、ルツェルン、エディンバラ、ベルリンなどの国際音楽祭にも度々招かれ、日本には1957年の初来日後、定期的に来日している。また1982年には、ベルリン・フィルの創立100周年記念演奏会にも参加した。レパートリーは、ウィーン古典派からロマン派の音楽を中心に幅広く、この編成ならではの編曲作品も含まれている。また1958年、ヒンデミットがこの八重奏団のために八重奏曲を作曲し、自らヴィオラを担当して歴史的初演を行ったのをはじめ、細川俊夫、ヘンツェ、ブラッハー、テリヒェン、シュトックハウゼン、イサン・ユンなどの著名現代作曲家が、彼らのために作品を残している。



榎本大進(第1ヴァイオリン) Daishin Kashimoto, 1st Violin

1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーでの1位ほか、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。2010年ベルリン・フィルの第1コンサートマスターに就任。2007年より赤穂国際音楽祭、2008年より姫路国際音楽祭の音楽監督を務める。

ロマーノ・トマシーニ(第2ヴァイオリン) Romano Tommasini, 2nd Violin

イタリア人の両親のもと、ルクセンブルクとフランスで育った。パリで音楽教育を受け、1983年に修了。ナンシー管弦楽団の第1コンサートマスターを務めた後、1989年にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の一員となった。

アミハイ・グロス(ヴィオラ) Amihai Grosz, Viola

1979年イスラエル生まれ。デイヴィッド・チェン、タベア・ツィマーマン、ハイム・タウプに師事。エルサレム弦楽四重奏団の設立メンバー。2010年よりベルリン・フィル第1首席ヴィオラ奏者として入団。楽器は、ガスパーロ・ダ・ソラの1570年製のヴィオラ。プライベート・コレクションより、彼に生涯を通じて貸与されている。HP: <http://www.amihai grosz.com>

クリストフ・イゲルブリック(チェロ) Christoph Igelbrink, Cello

1958年、デュッセルドルフ生まれ。1986年ハンブルク国立歌劇場に入団し、1989年よりベルリン・フィルのメンバーとなった。ベルリン・フィル12人のチェリストたち、フィルハーモニー・ピアノ三重奏団ベルリンのメンバーとしても活動している。

エスコ・ライネ(コントラバス) Esko Laine, Contrabass

1961年、ヘルシンキ生まれ。18歳でフィンランド国立歌劇場のメンバーとなった。1986年以来、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席コントラバス奏者を務め、ソリストとしても演奏している。

ヴェンツェル・フックス(クラリネット) Wenzel Fuchs, Clarinet

オーストリアに生まれ、ペーター・シュミードルに師事。ウィーンで学んだ後、1993年からベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席クラリネット奏者となった珍しい経歴の持ち主。名手ライスターの後を継ぎ、類い稀な美音で世界中の奏者、聴衆から注目を浴びている。

シュテファン・ドール(ホルン) Stefan Dohr, Horn

エッセンとケルンで学び、フランクフルト歌劇場管弦楽団、ニース・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団のソロ・ホルン奏者を経て、1993年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席ホルン奏者となる。これまでに彼に捧げられた多くのホルン協奏曲の初演を行なっている。HP: <https://www.stefandohr.com>

シュテファン・シュヴァイゲルト(ファゴット) Stefan Schweigert, Fagott

1985年からベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席ファゴット奏者を務める。これまでにシャルーン・アンサンブル・ベルリンのメンバーとしても活動、ヨーロッパ室内管弦楽団やギドン・クレーメル主宰のロッケンハウス音楽祭への音楽祭などにも多数出演。1987年以降はベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のカラヤン・アカデミーで教鞭を執る。